（別記）

**2019年度様似町農業再生協議会水田フル活用ビジョン**

**１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題**

当町における農業は水稲や酪農、肉用牛、畑作、そ菜、施設園芸等があり、その中においても畜産業が農業生産の大半を占めており転作作物の大半も飼料作物となっている。

　今後、農業従事者の高齢化や後継者不足による離農等が進み、受け手のいない農地の増加が懸念されている。

この深刻な状況を改善するためにも、持続的農業の維持と経営安定を図るために夏場の冷涼な気候を生かした施設園芸（イチゴ栽培の推奨）や畑作物の推奨、他畜産物と肉用牛との複合転換の推進等を行っている。

**２　作物ごとの取組方針等**

（１）主食用米

　８戸の農家が作付を行っており、うち６戸についてはクリーン農業の取組を行っている。作付面積については、２３．０９ｈａ（うち環境保全型農業（特別栽培米）の取組面積は１７.１８ｈａとなっています。）となっており、今後は作付面積の維持を基本としていき、個々の労働力、経営資源の動向を的確に見極めたうえで、それぞれの創意工夫を活かし計画的な経営を目指していく。

　しかし、担い手不足や高齢化が進んでいるため、ほ場の整備や団地化、農業機械の共同化を図り効率化を促進するとともに作業受委託の推進、基本技術の励行による生産コストの低減に努める。更には冷害対策として、耐冷性の品種の選定、地域に合った銘柄米の確立を目指すとともに水田農業の体質強化を図る。

（２）非主食用米（飼料用米、米粉用米、新市場開拓用米、ＷＣＳ用稲、加工用米、備蓄米）

　当町においては、畜産業主体の農業構造であることから、飼料作物への転作が主として行われており、水田転作による非主食用米の作付面積は皆無であるが、今後、主食用米の作付面積が生産数量目標を上回る場合においては、非主食用米への取り組みについて普及推進する。

（３）麦、飼料作物

　１．麦～需要に即した品種の選定を行うと共に、他の土地利用型作物との適正な輪作を行っていき、現行の作付面積を維持・拡大する。

２．飼料作物～畜産の安定的な発展を期するには、家畜飼養の動向に即して良質かつ低　コストの粗飼料を安定的に確保し、飼料自給率の向上を図る必要がある。

　このため、排水不良の改善に努め、反収の増大を図るとともに、良質な草資源の確保を図る一方、飼料作物の生産には高額の農業機械が多種類必要となるため、機械利用の共同化の推進、保守管理の徹底による耐用年数の延長によってコスト低減を図るため生産の組織化に努める。

また、土壌分析結果に基づく合理的な施肥により収量の向上を図るとともに、家畜のふん尿の有効利用による購入肥料費の節減に努め、サイレージ用とうもろこしの作付にあたっては、黄熟期以上の熟度が見込まれる品種を選定する。

（４）野菜

１．いちご～地域の気候を生かして、従来から地域振興作物として奨励している。今後　は生産拡大を図り、時期別需要動向に即した生産出荷体制の整備を図る。

このため、基幹品目の計画的な生産出荷や種苗の安定供給体制の整備を進め、地域の特色を生かした産地体制の強化を図るための生産流通基盤の整備を進め、特色ある多様な産地づくりを推進する。また、問題になっている「いちご」の連作障害対策として基本技術の励行及び高設施設への移行を積極的に推進し、連作障害を回避し、収量の向上を推進する。

更に消費者の様々なニーズに応えるために品質の向上はもとより、良質的なものを安定的に継続出荷することが何よりも重要であるので、産地形成や出荷規格の厳守と共同選別の徹底等を確立する。

２．小豆～需要に即した品種の選定を行うと共に、他の土地利用型作物との適正な輪作を行っていき、現行の作付面積を維持・拡大する。

３．馬鈴薯～需要に即した品種の選定を行うと共に、他の土地利用型作物との適正な輪作を行っていき、現行の作付面積を維持・拡大する。

（５）薬用植物（トウキ、オウギ、ジオウ、ソヨウ、ダイオウ、ソウジュツ）

本町では、後継者や担い手の不足等により農地が流動化せず遊休化することが懸念され、土地利用型として本町で可能な農業を見出すことが課題となり、地域の気候に合った薬用植物の栽培を奨励している。

　栽培方法等を検討し、収量の向上を推進し作付面積の増加を図る。

（６）不作付地の解消

　不作付地については、「いちご」等の施設園芸、薬用植物（トウキ、オウギ、ジオウ、ソヨウ、ダイオウ、ソウジュツ）等の拡大を促進していくことによる解消や新規就農者、地域の中心となる担い手への農地集約化、団地化を推進していき解消を図る。

（７）耕畜連携の推進

　耕畜連携については、昨年度までの耕畜連携助成と同様に水田放牧及び資源循環の取り組みを実施する農業者に対し助成を行い、取り組みの定着を図る。

**３　作物ごとの作付予定面積**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 作物 | | 平成30年度の作付面積  （ha） | 令和元年度の作付予定面積  （ha） | 令和２年度の作付目標面積  （ha） |
| 主食用米 | | ２３．０９ | ２３．０９ | ２３．０９ |
| 飼料用米 | | ０ | ０ | ０ |
| 米粉用米 | | ０ | ０ | ０ |
| 新市場開拓用米 | | ０ | ０ | ０ |
| WCS用稲 | | ０ | ０ | ０ |
| 加工用米 | | ０ | ０ | ０ |
| 備蓄米 | | ０ | ０ | ０ |
| 麦 | | ２．８０ | ２．９７ | ３．１０ |
| 大豆 | | ０ | ０ | ０ |
| 飼料作物 | | １０９．７１ | １０９．５７ | １１５．００ |
| そば | | ０ | ０ | ０ |
| なたね | | ０ | ０ | ０ |
| その他地域振興作物 | | １５．９６ | １６．３０ | １６．９０ |
|  | 野菜 | １１．８０ | １２．００ | １２．４０ |
|  | ・いちご | ５．８４ | ６．００ | ６．２０ |
|  | ・小豆 | ４．３６ | ４．３４ | ４．５０ |
|  | ・馬鈴薯 | ０．１７ | ０．１９ | ０．２０ |
|  | ・その他野菜 | １．４３ | １．４７ | １．５０ |
|  | 薬用作物 | ４．１６ | ４．３０ | ４．５０ |

**４　課題解決に向けた取組及び目標**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 整理番号 | 対象作物 | 使途名 | 目標 |  | |
| 前年度（実績） | 目標値 |
| １ | いちご | 地域振興作付助成 | 作付面積 | （Ｈ30年度）  作付面積　5.84ha | （Ｒ２年度）  作付面積　6.2ha |
| ２ | 馬鈴しょ | 地域振興作付助成 | 作付面積 | （30年度）  作付面積　0.17ha | （Ｒ２年度）  作付面積　0.2ha |
| ３ | その他の野菜 | 地域振興野菜作付助成 | 作付面積 | （Ｈ30年度）  作付面積　1.43ha | （Ｒ２年度）  作付面積　1.5ha |
| ４ | 飼料用作物 | 飼料作物団地化加算 | 作付面積、取組導入面積及び畜産農家の飼養頭数 | （Ｈ30年度）  作付面積 109.71ha  導入面積　14.63ha  乳牛　　　99頭 | （Ｒ２年度）  作付面積 115.0ha  導入面積　15.0ha  乳牛　　　101頭 |
| ５ | 薬用作物 | 地域振興作付助成 | 作付面積 | （Ｈ30年度）  作付面積　4.16ha | （Ｒ２年度）  作付面積　4.5ha |
| ６ | 飼料用作物 | 水田放牧（耕畜連携） | 作付面積及び取組導入面積 | （Ｈ30年度）  作付面積 109.71ha  導入面積　1.09ha | （Ｒ２年度）  作付面積 115.0ha  導入面積　1.5ha |
| ７ | 飼料用作物 | 資源循環（耕畜連携） | 作付面積及び取組導入面積 | （Ｈ30年度）  作付面積 109.71ha  導入面積　13.46ha | （Ｒ２年度）  作付面積 115.0ha  導入面積　14.0ha |
| ８ | 麦類・豆類 | 地域振興作付助成 | 作付面積、輪作体系による作付面積及び湿害対策の取組面積、小豆の反収 | （Ｈ30年度）  作付面積　7.16ha  輪作面積　7.16ha  湿害対策　7.16ha  小豆反収　180kg/10a | （Ｒ３年度）  作付面積　7.6ha  輪作面積　7.6ha  湿害対策　7.6ha  小豆反収　195kg/10a |

※　必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※　目標期間は３年以内としてください。

**５　産地交付金の活用方法の明細**

　　別紙のとおり